

**The Saito no Michi**

**Volume 7, August 1963, Number 8**

---

**In this Issue**

---

A Prophet's Voice: A Personal Testimony .....	President David O. McKay	484
President's Message .....	President Dwayne N. Andersen	488
Your Question: How Can First Neph : 3:7 and Doctrines and Covenants 84:4 be reconciled? .....	President Joseph Fielding Smith	493
Church Articles .....		505
Genealogy Guide (for September)		
Sunday School Guide for J.S.S. (for September)		
Sunday School Guide (for September)		
Hymns for Exercise (for September)		
MIA Leader (for September)		
Mission Mother's Message .....		519
Relief Society Lessons .....		523
Literature Social Science—Visiting Teacher Message Wark Meeting		
Mission Headquarters News .....		499
Instructions from Mission clerk.....	Elder Wade Fillmore	492
Branch News .....		496
GOSPEL IN ENGLISH .....	Sister Smith	545

聖徒の道

第七卷  
第八号

一九六三年八月号



モルモンについて

キキきたいですか？

モルモンについて

もつとしりたいですか？

あなたはたづねるはずです。

予言者のことば

# 個人的の「あかし」

大管長 デビド・O・マッケイ……484

伝道部長メッセージ

ダウエン・N・アンダーセン……488

## 質疑応答

解答者 ジョセフ・フィールディング・スミス長老……493

## 心眼の師 武蔵野博兄弟

渡部正雄……500

メルケゼデク神権、第二長老定員会……505

系図の道しるべ(九月号)……503



子供の日曜学校ガイド(九月用)	508
日曜学校ガイド(九月用)	510
練習の讃美歌(九月用)	514
M I A リーダー(九月用)	515

伝道部扶助協会長メッセージ	519
ペギー・ヒュイシ・アンダーセン	523
ジョセフ・スミスの生涯 (10) (扶助協会文字用レッスン)	528
扶助協会予告・レッスン	528

伝道部書記指示	492
伝道本部だより	499
支部だより	496
英会話テキスト	545

伝道部書記  
ファイルモア長老

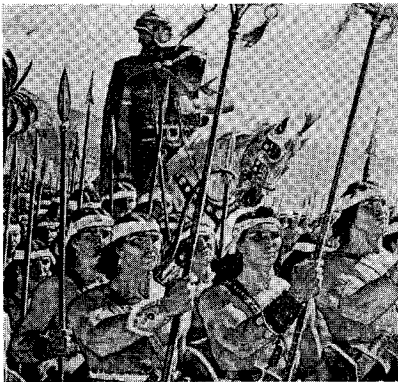
今月の表紙

ヒラマンとかれのひきいる二千人の若い強者たち

参照聖句

アルマ書 53 章 10 節 ~ 32 節

アルマ書 57 章 19 節 ~ 27 節





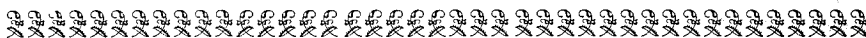
予言者のことば

## 個人的の「あかし」

大管長 デビッド・O・マッケイ

主は、主を熱心に求めるあなたをけっしてお見すてにならない。人生にはいろいろのじやま物があることがある。人生には迫害があり、克己の必要があり、涙があるにちがいない。それはあなたがたえず誘惑に接して居り、俗世の理想に接していて永遠に至る道からはずれないためには、これらにうち勝たなくてはならないからである。それであるから、しばしの間はぎせいははらわなくてはならないように見えるが、それはただ一時のことである。主は、主を熱心に求める人々をけっしてお見すてにならない。その答えはあなたの思い通りに与えられないかも知れないが、たしかに与えられるにちがいない。主はあなたと約束したことをたしかに果したもう。

このことを実例で説明するために、私は、私の個人的の「あかし」をつけ加えざるを得ない気がする。私は、私に与えられたことのある種々の「顕示」のことをめったに人に話したこと



がない。私はそれが「スコットランド人の無口」かどうか知らないが、私は、私にとって最も神聖なことを人に話したくないのだ。

私は少年のとき福音の原則と、神権の力と、またこの教会の働らきが神のみわざであることに關する「あかし」に耳を傾けた。私は、私たちが祈るならその「あかし」を得るであろうという訓戒を聞いた。しかし、私はどういふものか、何か「顯示」を与えられなければ「あかし」を得ることができないということとを青年時代に考えるようになった。私は予言者ジョセフ・スミス最初の示現のことを書いてものを読んで、予言者は自分の受けた示現が神から来たものであることを知っていたということを知った。私は声を聞いた長老たちのことを聞いた。また私は予言者ジョセフ・スミスの使命が神聖であることをはっきり告げる声を聞いたという私の父の「あかし」を聞いた。そして、どういふものかそれがあらゆる「あかし」の源であるという印象を受けた。

私は青年時代に、人間がこの世で得ることのできる最も貴いものはわが教会の働らきが神のみわざであるという「あかし」であることを実感した。私はそれを飢え渴くように求めた。そして、もしもその「あかし」を得ることができればなら、すべてそのほかのものは本当に無意味に思えるであろうと感じた。私は、私の祈りをおろそかにしなかったが、私は夜毎の祈りがその「あかし」をもたらずとはけつて感じなかった。(今過去をふりかえってみると、侵入者を近よせないことは保護を求める祈り以上のものであった。まことにそれは利己的の祈り以上の

ものであったが)私は室の中であろうと外であろうと、また林の中であろうと丘の上であろうと、人に知られないひそかな祈りは、望むだけの「あかし」が与えられる場であろうといつも感じていた。

そこで私は、私の乗馬をかたわらに立たせて「ナナカマド」のしげみのそばで一度ならずひざまずいて祈ったことがある。私はある日の午後、これらのことを考えながら丘の上を馬に乗ってあるいていたが、丘のむこうの静かなところが「あかし」を得るのに最もよい所だと心にきめたことを思い出す。私は馬をとめ、たづなをその首になげかけてちよつと二三歩ひきさがり、一本の木のかたわらにひざまずいて祈った。

空気は澄みわたってきれいであり、太陽の光は快よく輝き、野生の木や草の生き生きとした緑と花は空気によい香りをつけていた。私とその場のことを思い出すとき、私の四方をとりまいていた環境が新しく頭に浮んでくる。私はひざまずき、私の心のありつたけの熱情をかたむけて神に祈り、この福音の「あかし」を与えたまえとねがい求めた。私はこのとき、なにか「顯示」があるにちがいない、私に確信がついた変化が(感じる)にちがいないと思つた。

私は立ち上つて馬に乗り、馬が丘の道の上をあるき始めると、思い出すに私は自分自身をむしろ内省的にしらべていた。そして無意識に頭をふつて独りごとを言った「いやいや、何も變つたことはない。私はひざまずいて祈る前の自分とおなじ自分だ」と。予期していた「顯示」は来なかったのだ。

それは一度だけの経験ではなかった。しかしながら、その

「顕示」はついに来た。しかし、私が前から予期していたような形では来なかった。神の力の「顕示」や天使のあらわれさえも私に來たが、それがついに來たときそれは単に「確信」であつた。「証拠」ではなかつた。

あるとき私はアメリカから七千マイル離れたところに居て、ジェームス・E・マクマリン長老とスコットランドの大会に出席していた。その大会の神権会では神の力がひじょうに強く現われたので、その小さな部屋に出席していたある男はとび上つて「兄弟たちよ。この部屋には天使が何人も居る」と言つた。

それで信仰の強い男たちは、恐れからでもなく悲しみからでもなく、彼らの胸がいっぱいになつて泣き始めた。そしてそれは彼らにあのことが真実であるあかしを残した。その男の宣言は私をそれほど強く感動させなかつたが、神のみたまがその場に居たもうたことが私を本当に強く感動させた。

しかし、そのときマクマリン長老が立ち上つて、「その通り、この部屋には天使が何人も居る。そして、その中の一人が、あそこに腰をかけているあの青年の守護の天使だ」言つと、私が知つていしかも私たちの大会（今は宣教師地方部大会と呼ばれるであろう）に出席していた一人の若い長老を指さした。彼は自分の胸がいっぱいになつて満ちあふれたかのように泣いていた。マクマリン長老はつづけて「そして、今一人はあちらに居るあの青年の守護の天使だ」と言つと私がつきあつたことのある一人の青年を指さした。このとき私は靈感によつて、マクマリン長老のことばは本当だということを知つた。その部屋に居た者でそれを知らなかつた者は一人もなかつた。

私はそれまでの親しい交わりによつてジェームス・マクマリンは純金であることを知つていた。彼の福音を信ずる信仰は絶対であつた。また私は、彼ほど自分で正しいと思つたことに誠実である人はどこにも居ないことを知つていた。それで彼が私をふりかえつて見て、その時私が約束と言ふよりはむしろ警告と思つたことばをかけたとき、それは私に消すことのできない印象を与えた。救い主がペテロに告げたもうたことばをほかのことばでやさしく言い表わして彼は「デビッド兄弟よ、私に言わせてくれたまえ。サタンは小麦のようにふるうためにあなたを欲したことがある。しかし神はあなたのことを心にかけておいでになる」と言つてさらにつけ加えて「もしもあなたが信仰をいつも失なわなかつたら、あなたは今にわが教会の主要な評議会の一員になるにちがいない」と言つた。私は、私の少年時の祈りに対する答えが与えられたことを知つた。

しかし教会の働らきが神のみわざであるという「あかし」は、「顕示」が偉大ですばらしいとは言へ「顕示」によつては与えられなくて、神のみこころに従ふことによつて、「人もし御こころを行なわんと欲せば、この教えの神よりか、わが己れより語るかを知らん」（ヨハネ伝七〇十七）というキリストの約束に一致して与えられた。

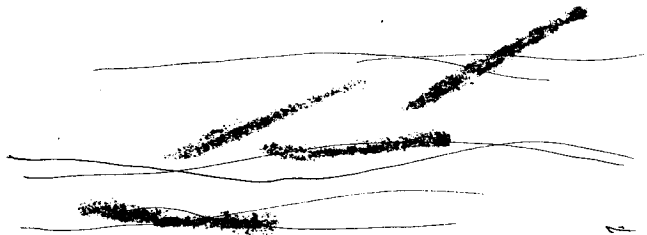
それをあなたの欲するどのような方面からでもよいから試験したまえ。そうすれば、その試験に耐えられない面はイエス・キリストの福音の中には一つもないことがわかるにちがいない。そしてあなたが弱いときに、あなたがまだ青年の時代に、これらの永遠の生命の諸原則を守り行い始めるときは、あなた

はそれが聖靈の祝福をあなたのころにしみこませることを知るにちがいない。それはまったく確かに、神は生きもう、その神は本当にわれわれの父なる神であり、またこの教会は予言者ジョセフ・スミスを通して確立された神のみわざであるという「あかし」をあなたに与えるにちがいない。

それが私のあなたに告げる「あかし」である。私はそれを身を以て知っている。それは人生において最も貴重なものである。あなたはそれを試験することができる。私は、私の子供たちと、子供たちの子供たちと、またその子供たちをして、どのようなこの世の報酬を得ることよりもそれに感動させたいと思っている。それはその時彼らが善良な市民になっているにちがいないことを私は確信しているからである。私は彼らが善良な父や善良な母になるにちがいないことを確かに知っている。私は彼らがあらゆる人にもまた神にも誠実な人間になるにちがいないことを確かに知っている。また私は、彼らが男として当然為すべき義務は完全に果し、女として当然為すべき義務は完全に果すようになるにちがいないこと、また彼らはそれを福音の神聖な原則に服従することを通してするにちがいないと私はころからはっきり知っている。

神よ、われわれが誠実であるように、神に対しても神のみわざに対しても誠実であるようにめぐみ導きたまえ。これはまことに誠にイエス・キリストの福音である。神がわれわれに福音を实地にふみ行なう力を与えたまわんことを。声で福音を宣べ伝え、声で福音の「あかし」を述べるだけでなく、またまことに誠に福音を身を以て行ない、われわれの話すことを行いに

よって真実知っているということを世の人に「あかし」する力を与えたまわんことを。







は」の中にある模範的モルモン家庭がどのようなものであるか考  
えてみましょう。

「ジョンズ家族はブルーブリッジステーク部のなかにある八つの  
ワード部の一つであるヒルハイツワード部に属している。彼らのワ  
ード部には約八百名の人が居る。彼らは人々が私たちの家と親しく  
言うように、そのワード部を私たちのワード部と親しく呼んで居  
る。彼らはワード部の建物を建てるために貢献(金銭物質そのほか)  
をし、また毎月その維持のために貢献している。彼らはその中に持  
ち主としての誇りを感じている。彼らは日曜だけでなくまたそのほ  
かの平日にもたびたびそこへ行くので自分の家に居るような感じを  
もっている。

ジョンズ氏はワード部監督会の副監督である。監督会は一人の監  
督と二人の副監督とから成る。現代の事務的用語で言えば、ジョン  
ズ氏は副会長というところである。彼はすでに二年間この職にあ  
り、彼と彼のほかの監督会々員は彼らの奉仕に対する感謝の挙手を  
以て解任されるまでいつまでもその職に留まるにちがいない。解任  
されたときには三人のほかの人たちが代って彼らの地位を占める。

日曜の朝、ジョンズ家の者は一人のこらず教会へ行く用意をす  
る。ジョンズ氏と十四才の少年ボブは、母親と娘たちよりもさきに  
家を出る。長男のラルフは家に居ない。彼については後に考察する  
ことにする。九時に父親とボブとは神権会に行く。ボブは執事、父  
親は大祭司である。この集りで監督はすべての成人男子と少年たち  
に、実際的に関係のあることを発表する。彼は建物の周囲のコンク  
リート歩道にひどいヒビが入っていること、また灌木や芝生もとく  
に手入れを要することを指摘する。委員会はすでにこの問題につい

て討議を経て居り、この問題がただちに配慮される必要のあること  
を感じている。それからモルモン教徒の手つずぎに従ってその提案  
は支持の挙手を求められる。そして木曜日(ワード部の成人男子と  
少年たちは働らく準備をして集会所に集るといふことが全員一致で  
同意される。扶助協会の婦人たちはサンドウィッチと飲みものを用  
意するであろう(これは今までに、東京北支部や西支部の建築計画で  
または日本や沖縄に建築中の教会堂で働らく人々のために必要なこ  
とに関するひじょうに適切な討議となる)ことができたはずである)。  
神権会がすむと日曜学校がはじまる。この集りはひじょうに若い  
者から年よりに至るまで教会員をみな含む。ジョンズ家の人々はみ  
なこれに出席する。夜になると礼拝(聖餐会)が行なわれる。この  
とき再び全家族が出席をする。ベティとその母親とは二人とも聖歌  
隊で唱う。お父さんがその会を司会することもある。

毎日曜日、この礼拝のために異った人々が話をする。ワード部の  
会員が会衆に話をするように召されることもあるが、またほかの場  
合には訪問者が話をするように招待されることがある。

月曜日の夜は、ジョンズ家の家族はどこへも出かけない。実際、  
ワード部では月曜を家庭の夕と呼んでいる。教会の幹部たちは、す  
べての家族がすくなくとも毎週一回家族と一しよに過して和合と親  
しい交わりを力づけるように勧告している。この夜にさしざわりの  
あるようなワード部の集会は計画されない。

火曜日(または水曜日に)ジョンズ夫人は自分が属している扶助  
協会に出席する。扶助協会はわが教会の婦人の補助組織である。こ  
の集りのプログラムはいろいろちがっていて、月の最初の週は神学  
(宗教)、二週目は縫物や家政上の技能を教わり、三週目は文学、

四週目は社会科学の勉強に費やされる。

火曜日の夜、十代であるベティとボブとはM I A(相互発達協会)に出席する。そして二人はいろいろな学課を勉強する。その中には劇、演説、ダンス、音楽などの課目がふくまれている。

水曜日の夜、ベティと母親とは一時間半の聖歌練習のためにワード部の集会所へ行く。その間にジョンズ氏はワード部の運営に附帯する多くの問題を討議するために監督会の集りに出席する。

木曜日の夕方、ジョンズ氏と少年ボブとはワード部の庭へ働らきに行く。ジョンズ夫人は飲みものを供するためにあとからやつてくる。

土曜日の午後、ボブと父親とはワード部の福祉計画のために「エンドウ」の栽培に出かける。(または、この伝道部で今建築中の教会堂を建てる仕事を助けるために出かけてもよい)。

日曜日が再びまわってくると、全家族はまた日曜学校と聖餐会にそろって顔を見せていることでしょう。それがモルモンの模範的家族の証拠なのですから。

主なる神さまは日本と沖繩の地にある模範的モルモン家族を見そなわすことができたならさぞお喜びになることでしょう。その家族は父親も母親も子供たちも一人のこらずみな連れ立って日曜日の礼拝に出席し、つづく一週間は自分たちの信仰を毎日の生活にあらわす家族であります。私はこのごろだんだん、教会員の中の母親たちが、子供たちのためにいろいろの集りに出てこないことが多すぎると気づくようになりました。また出てこないのが父親であることもあります。この人たちは、その子供たちを教会へつれてくるよりも家に居て見やるために教会へ出てきません。これは教会員に対す

る主の計画ではありません。母親たちは、父親たちやそのほかの家族の者たちとおなじように教会の集りへ出る義務があります。教会の集りへ自分も自分の子供たちも出席するのは母親の責任であります。さきの大管長ヒーバー・J・グラント長老のことは次に引用しますから注意して見て下さい。グラント大管長は「婦人たちのすばらしい働らきがなかったら教会は衰えてしまっていたであろうということをお私実感する。……家庭の中にある母親は、子供たちの心の中にイエス・キリストの福音が真実であるというあかしと愛とをしみこませる者として、父親よりはるかにすぐれている。われわれの父親も母親も、主に仕えて人類の救いのために働らくという唯一つのことを目あてにして早いころ西部アメリカへ移ってきた。

そして、この働らきに身を献げている婦人のあるところには、ほとんど必らずと言ってよいほどこの働らきに身を献げる子供たちが居ることを知るのである」と言われました。またジョセフ・F・スミス大管長も「世の中には、弱き者よ汝は女なりと言うことを好む人々がある。私はそうだと思わない。肉体の面から見たら女は男より弱いかも知れない。しかし、霊の面から道徳の面から宗教の面から、さては信仰の面から女性を見たら、まことの確信をもっている女性にいかなる男性が匹敵することができるか。女性は男性よりもいつも喜んでぎせいをささげ、その上堅実と敬神と道徳と信仰において男性と肩をならべることができると言っておられます。

兄弟姉妹よ、私の考えるところでは、日本と沖繩の婦人たちは、極東の地に神の国を建てるための大きな役割をもっています。「教義と聖約」の第六十八章で主は「また、シオンまたは組織せられたるシオンのステーキ部内にて子供を有する両親あらば、その子

供八才のとき、悔改め、生ける神の子キリストの信仰、バプテスマと按手による聖霊の賜などの教義を教えて理解せしめざれば罪その両親の頭に留るべし。……また両親はその子供たちに祈ること、主の前に義しく歩むことを教えざるべからず。……シオンに住む民は、その任命せられたる働らきあらば、これを憶えて全く忠実に務むべし」と言っておいでになります。

心理学によれば、子供たちがその心に一番強い印象を受けるのは学齢に達する前であり、教会の集りのほかに、子供たちの心に強い印象を与えるところがあるでしょうか。母親にとつて、自分の集りに出席することのほかに、子供たちに好い模範を示す方法があるでしょうか。また母親にとつて、自分の集りに出席してみたい力を受けることのほかに、自分の知恵と福音のあかしとを強くする道があるでしょうか。子供たちが人のことばや行ないの意味を理解するほど大きくなつたと、私たちが思うまでは待つて居られませんか。人のことばや行ないの意味を理解させることは生れおちるとすぐに始めなくてはなりません。家に居て子供たちを見てやるよりも、子供たちを教会へつれてきて敬まいのころを教えこむのは、一層大きな努力がいるにちがいありません。もしも両親に教会の集りへ出る責任があるときには、父親も母親も家に居て子供の世話をしないで集りへ出ることを主は期待しておいでになります。現代の予言者であるわが教会の指導者たちは、重い病氣にかかっているときのほかは聖餐会に出ることを主はその民に期待しておいでになると、言っておられます。これは父親も母親も子供たちもおなじことであります。たぶん父親は、母親のことをもっと思いやって、子供たちを教会へ出す準備をするために何か手助けをする必要があ

るでしょう。また、集りのときに壇上の席につく地位に居ないならば、またはほかの大切な集りに出なくてもよいならば、教会の集りで子供たちの世話をするために手を借す必要があるでしょう。神の誠命を正しく守るには、家族の一人一人がみな完全に協力をする必要があります。父親が毎日曜日に教会の集りへ出なければならぬ地位にあるからと言って、母親はその子供たちに対する義務を怠つてもよいという理由にはなりません。もしも母親が、子供たちに福音の原則を教えずにはならないなら、母親自身まず第一に福音の原則が何であるか知らなくてはなりません。これをするための一番よい道の一つは、母親が自分の出るはずの集り、すなわち日曜学校、聖餐会、扶助協会そのほかの集りへ出席することであり、父親である夫が、神権者としてその義務を完全に果すのはよいことですが、その妻である母親が自分自身を成長させ教会の諸活動に参加するのはまた大切なことでもあります。神権者はその家と家族とが秩序正しく保たれ、家族の者もそれぞれの集りへ出るように気をつける義務があります。幼ない時から教会へ出ることによつて子供たちは教会へ出席する習慣を身につけ、集会へ欠かさず出たいと思うようになるにちがいありません。主はこのようになることを欲しておいでになります。父親は家長であつて家の中のことを管理します。一方母親は、父親の助け手であり、支える者であり、子供たちを教える者であつて、たいいてい家の中で手本を示します。今すぐに神の祝福をみな受けることができるように準備を始めて下さい。母親が父親を敬まつて支持するように、父親は母親に思いやりと助けを与えなければなりません。そうすれば子供たちはみな両親の模範を見ないます。家族の者たちが、此世から永世にわた

って「結び固め」られる神殿を建てるひじょうな熱意がこの地に見られます。このすばらしい特権を得るために今から準備を始めて下さい。神殿参入の特権を得るための大切な資格の一つは教会の諸集会へ出席することにあります。

婦人の地位は男の地位におとらず重要であります。婦人も男子も教会の中にある各々の召しを支持し、完全に果すたために一しよになつて働らかなくてはなりません。十二使徒であつたウイヅソウ長考は「主は性の異なるに従つてその祝福を制限したもうことはなくて、われわれが主を信ずる信仰と主に対する献身の程度に応じて祝福を賜う」と言っておられます。

教会員の家族の各々が、福音の計画の正しい姿について一層よく理解するようにお祈りいたします。

## 伝道本部書記指示

みなさま

この間アメリカからうれしいニュースが来しました。アメリカで発行されている教会の雑誌であるインブルーヴメント・エラを御存知でしょうか。それが今度日本人にもたやすく手に入るようになりました。値段も以前よりずい分安くなっています。ではその値段と購入の手続を次に示します。

インブルーヴメントエラ

1年分	1,075円
2年分	2,060円
3年分	2,860円
3年以上	875円
1年ごとに	

チャーチ・ニュース

1年分	1,250円
-----	--------

注文は支部で一括されるか、または個人で現金をそえて、本部書記まで申し込んで下さい。それには、ローマ字で書いた名前と住所を付けて下さい。

みなさまがたが、一人でも多くこの雑誌を読まれ、教会の福音をよく勉強されますように望みます。

伝道本部書記 ウェイド・W・フィルモア長老

解答者 ジョセフ・フィールディング・スミス長老

質問。

「主が命じたもうことは、人がそれを為しとげるために前以てある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわない」とニーファイが言っている「ニーファイ第1書」の第3章7節と、今の代にインデペンデンスで神殿を建てよと聖徒たちが神の命を受けたが、その神殿は神の命令通りに建たなかつた「教義と聖約」の第84章4節のところとをどのようにして調和させることができますか。

解答。

ある人々には何かこのような矛盾があるらしいと思えても、この二つの聖句の間にはどんな矛盾も存在していない。普通「代」——もしくは「世代」とは「一つの身分の次に別の身分が来る、または父から子へとつずいて行く普通の時期」と考えられているが、救い主がユダヤ人に「よこしまにして不義なる代はしるしを求む」(マタイ伝十二〇三十九)と仰せになったときの「代」について、救い主は明らかに何ら一定の時間的制限をつけておられずに、父から子へと数代の間に及んでも悪事がつずくかぎり無制限にわたる状態のことを言っておいでになる。この啓示をお下しになるに当って、主はこの啓示の発表された時から百年以内にまだ生きていて、神殿の祝福にあずかり、神殿の上に光栄ある雲のかかるのを見る人々の世代があることを本当に考えておられたと仮定しても無理ではなからう。また千八百三十二年に生きていた人はもはや一人も今の世に居ないと思っても無理ではない。それにもかかわらず、ニーファイに与えられた神の命令の中にも、またニーファイの子孫にとつて靈の幸福にも物質上の幸福にもひじょうに大切である版を手に入れるに当って主はかならず彼をめぐみたもうというニーファイの断言の中にも、予言者ジョセフ・スミスに主が与えたもうた啓示の中で仰せになっている命令または約束とどのような意味においても矛盾しているところはない。千八百四十一年の一月にわが教会へたまわつた別の啓示を見ると、主はわが教会の会員の神殿を建てる責任を次のような啓示のことで免除しておいでになる。すなわち、

「誠にまことにわれ汝らに告ぐ、われいかなる人の子らにもせよ、命を下してわが名のためにある業を為さしむるに、これら人の